

なぜ50代男は 孤立死する

ノンフィクションライター
橘由歩

④

と家の往復
なので地域
との付き合い
いもなく、
友だちもい

それは、43歳男性の孤立死だった。突然死で死後3週間たつて発見された。遺品整理業「キーパーズ」社長の吉田太一さん(47)は、彼の遺品に現代の孤立死を象徴するものを見たという。

「部屋には7台のパソコンがあり、20台もの外付けハードディスク、数百枚のDVDで足の踏み場もなかった。DVDの大半は、アダルト関係。これだけ録画するのには、どれだけの時間を要したのか……」

部屋から推測できる男性の日常はこうだ。

「部屋に他人が訪れたことはなく、主食はコンビニ弁当とカップラーメン。外出することもなく、24時間こもってパソコンに向かっていた」

パソコンがなければ、男性はもつと外出したかもしれない。ワンルームマンションという住居形態、コンビニ、パソコン、そしてゲームの登場が人を孤独に生きられるようにした。

「この全部に絡んでしまつたら、抜け出せません。特に大企業に依存して生きてきた50代男性は、依存心が高く、自立心が低い。育てられていないんです。会社

彼はアダルトDVDに埋もれて死んだ…

ないから、仕事を失えばテレビをつけて酒を飲むしかない。家が汚いから、人が来るのを拒む。これがほとんどの孤立死のパターンです」

今や、孤立死の8割が男性だ。この現実を、とりわけ男性は直視すべきだと吉田さんは言う。

もはや、孤立死は他人事ではないのだ。

「友だち、家族、お金、家、やる気、働き口があるかどうか、ご自分をチェックしてみてください」

1つでも2つでも持っていれば、何とかはい上がる事ができる。

孤立死に至らないためには、とにかく数%でもいいから、自立度を高めること。プライベートな人間関係をおろそかにしないことだ。

「それと同時に、自分のことだけを考えるのではなく、社会に対し、いい影響を与える人間になるように心がけること」

子どもたちに生きる範を示す側になれば、社会的に孤立することはない。

(つづく)

※年金では生きられない」は休載します

